

沖縄県における雑豆および雑穀類在来品種の探索収集

勝 田 真 澄・竹 谷 勝

農業生物資源研究所・遺伝資源第一部・植物探索導入研究チーム

Exploration and Collection of Grain Legumes and Millets in Okinawa Prefecture

Masumi KATSUTA and Masaru TAKEYA

*Laboratory of Plant Germplasm Introduction, Department of Genetic Resources I,
National Institute of Agrobiological Resources,
2-1-2 Kannondai, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan*

Summary

Since Yaeyama and Miyako Areas in Okinawa prefecture had been isolated each other until recently, unique traditions have been inherited in each area. Diverse crop genetic resources, therefore, are expected to distribute in these areas. Against this background, exploration for collecting landraces of grain legumes and millets in Yaeyama Area (*Hateruma island*) and Miyako Area (*Tarama, Ikema and Miyako islands*) was carried out from February 18 to 22, 1992. These islands are located approximately 500 km south from Okinawa island.

A total of thirty nine samples were collected. As food legumes, 8 samples of cowpea (*Vigna unguiculata*), 4 of mungbean (*Vigna radiata*), 3 of soybean (*Glycine max*), and 3 of lablab (*Dolichos lablab*) were collected. Cowpea is used as a substitute of azuki bean (*Vigna angularis*). Mungbean and soybean are mainly grown as green manure for sugarcane.

Millets had been grown widely before sugarcane was introduced. Several types of landraces were expected to exist in each island. Although millets are still used in some rituals or ceremonies, it was hard to find farmers who still grow millets. Four samples of common millet (*Panicum miliaceum*), 3 of foxtail millet (*Setaria italica*) and 3 of sorghum (*Sorghum bicolor*) were collected.

In addition to these samples, 4 samples of sesame (*Sesumum indicum*), 3 of brassica (*Brassica juncea*) and 2 of wheat (*Triticum aestivum*) were collected.

As observed in the other parts of Japan, landraces seemed to have disappeared rapidly in these islands during last decade. Therefore, it is urgently needed to explore the other islands of these areas.

KEY WORDS : landrace, millet, food legume, Yaeyama islands, Miyako islands

1. 目的

沖縄県南部の八重山・宮古諸島は、日本の最南端の亜熱帯気候地域に位置する島々である。沖縄本島からは約600kmの距離にあり、距離的に接近している台湾などの影響を強く受けた独特の文化を形成してきた。かつては離島として自給自足の生活が営まれ、雑穀・豆類などでは固有の在来品種が多く栽培されていたといわれる。

これまでに、熱帯農業研究センター沖縄支所が中心になって、平成2年から3年にかけて石垣島と宮古島における在来作物品種の探索収集が行われた。その結果、サトウキビ中心の農業が行われ作目が単純化してきたことや、生活習慣の変化によって島々に伝承されてきた伝統的な食生活が失われつつあることなどによって、在来作物品種が急速に失われていることが明らかになった¹⁾。

本年度は、これまでに調査の行われていない島のうち、日本最南端の波照間島及び宮古島と石垣島の間位置する多良間島を中心として南西諸島における在来品種栽培の現状を調査し、種子の収集を行うことを目的とした。

2. 調査方法

1992年2月18日から22日までの5日間、在来品種の探索収集を行った。調査を行ったのは、波照間島・多良間島・池間島・宮古島の4島である。島の位置と行程を Fig. 1 に示した。

それぞれの島における調査では、現地の事情に詳しい県農試・農業改良普及所・村役場の方々の協力を得て、在来品種の栽培状況について聞き取り調査を行うとともに、種子の分譲を受けた。

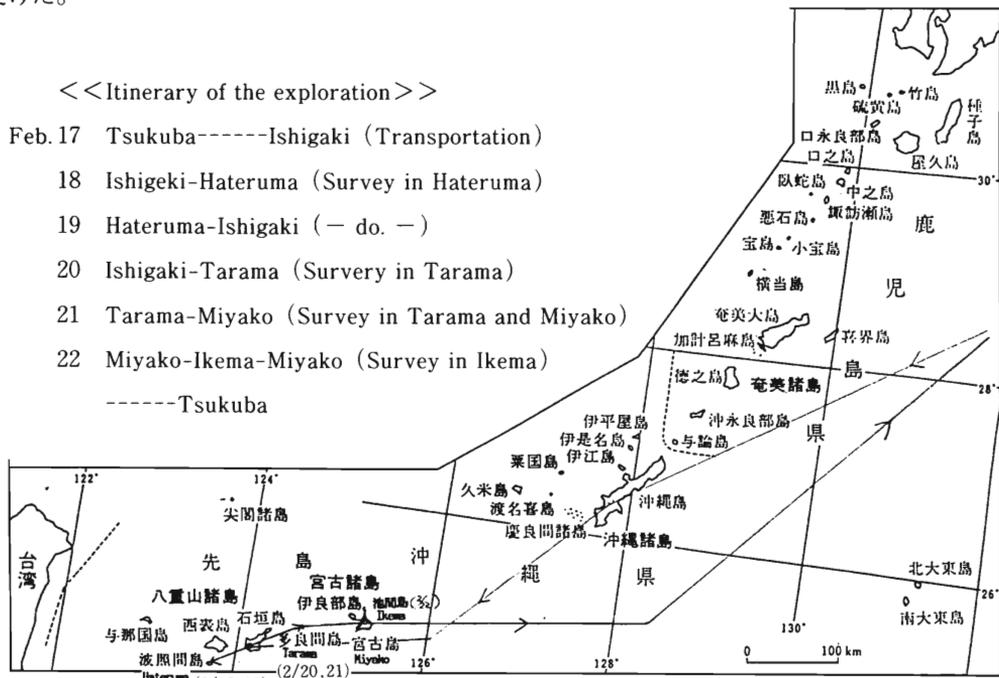


Fig. 1 The Itinerary and route of exploration
探索のルートと日程

3. 調査地域の概要と在来品種の栽培状況

今回調査を行った波照間島・多良間島・池間島は、直径数kmの大きさの島で、集落は島内のほぼ1ヵ所にまとまっている。

波照間島は、農業を営んでいる日本最南端の島である。石垣島から高速船で約1時間の距離にあり、八重山諸島に属している。農業はサトウキビが中心で、最近では野菜のハウス栽培が導入されつつある。かつては、天水で稲やサツマイモを栽培し、アワなどの雑穀類も多く栽培されていたという。今回の調査では、シマナ（カラシナ）やブーマメ（フジマメ）など畑の端に放任されている作物や豆類で、在来品種が現在も利用されていることが明らかになった。

多良間島は、距離的には石垣島と宮古島のほぼ中間に位置するが、宮古島諸島に属し文化的にも宮古島の影響を強く受けている。また池間島は、宮古島の南端に近接した島であるが、調査の一週間前に開通した橋で宮古島と陸路で結ばれるようになっていた。これらの島々でも農業の中心はサトウキビ栽培であり、在来品種は自家用に一部の農家が栽培するのみであった。

いずれの島でも、祭礼などに雑穀やゴマなどを使った伝統的な料理を供えものにする習慣が残っているが、一般の家庭では購入品で済ませることが多いようである。また、八重山・宮古・沖縄本島の諸島間での種子交換も多く行われており、各島固有の品種は失われつつあると考えられた。

4. 収集品種の特徴

収集したのは、ササゲ・リョクトウ・キビ・アワ・ダイズ・モロコシなど、計39点である。収集品の内訳は、Table 1に示した。

豆類では、自家用に栽培されているササゲや、サトウキビの緑肥として栽培されその種子を自家用に利用しているリョクトウやダイズなどに在来品種が見られた。

ササゲは「アズキ」という名で栽培されている。波照間島では種皮色赤のササゲが栽培されていた。4月頃に播種して、8月に収穫する晩生品種(910036,910037,910047)にはハチガツマミと呼ばれているものもあった。これに対して早生品種のゴガツマミ(910051)は2月に播種して5月に収穫される。莢色には黒(910037,910054)と白(910036,910047,910051)があるが、黒莢の品種は近年宮古島から導入したという情報もあった。多良間島では、種皮色が黒の早生品種(910070)を収集した。多良間島と宮古島で収集した種皮色赤の品種(910076,910078)は晩生で、3月に播種して9月に収穫される。晩生の品種は蔓性で、品質が良いということでどの島でも栽培されていた。ササゲの用途は餡やゼンザイなどで、小豆と同様に利用されている。

ダイズは「ゲダイズ」と呼ばれる極小粒の品種が波照間島で栽培されていた。生育は無限伸長型で、3月に播種し11月に収穫する。この品種は味噌や豆腐などに利用されていた。同様の品種は多良間島(910069)や池間島(910081)でも収集した。大粒の在来品種もかつて栽培していたということであったが、現在も栽培する農家を見いだすことはできなかった。

リョクトウは「アオマメ」と呼ばれる。波照間島では粒大の違う2種類(910038,910039)

Table 1 A list of plant materials collected in Okinawa prefecture

沖縄県における収集品リスト

収集番号	収集日	作物名	呼 称	収 集 情 報	収 集 地
910036	2. 18	ササゲ	アズキ	農家貯蔵 在来種	波照間島前地区
910037	〃	〃	〃	〃 〃	〃
910038	〃	リョクトウ	アオマメ	〃 〃	〃
910039	〃	〃	〃	〃 〃	〃
910040	〃	キビ	モチキビ	〃 〃	〃
910041	〃	フジマメ	ブーマミ	圃場 〃	〃
910042	〃	カラシナ	シマナ	〃 〃	〃
910043	〃	モロコシ	ヤタブ	〃 〃	〃
910044	〃	カラシナ	シマナ	〃 〃	〃
910045	〃	リョクトウ	アオマミ	農家貯蔵 〃	波照間島富嘉地区
910046	〃	コムギ	ムギ	〃 〃	〃
910047	〃	ササゲ	アカマミ (ハチガツマミ)	〃 〃	〃
910048	〃	キビ	スン	〃 〃	〃
910049	〃	ゴマ	ゴマ	〃 〃	〃
910050	〃	〃	〃	〃 〃	〃
910051	〃	ササゲ	アカマミ (ゴガツマミ)	〃 〃	〃
910052	〃	カラシナ	シマナ	〃 〃	〃
910053	〃	ダイズ	ゲダイズ	〃 〃	波照間島南地区
910054	〃	ササゲ	アカマメ	〃 〃	〃
910057	〃	ゴマ	ゴマ (グマン)	〃 〃	〃
910058	〃	フジマメ	ブーマメ	路傍 在来種?	波照間島飛行場道路
910060	2. 19	ゴマ	ゴマ	農家貯蔵 在来種	〃 前地区
910061	〃	キビ	不明	〃 〃	〃 南地区
910065	〃	アワ	ア	〃 〃	多良間島
910066	〃	モロコシ	タカキビ (ウブゲン)	〃 〃	〃
910067	2. 20	フジマメ	フーキマメ	圃場 〃	〃 大木地区
910068	〃	リョクトウ	アオマメ	農家貯蔵 〃	〃 大道地区
910069	〃	ダイズ	ゲダイズ	〃 〃	〃 〃
910070	〃	ササゲ	アカマメ, アズキ	〃 〃	〃 〃
910071	〃	モロコシ	ウブゲン	〃 〃	〃 〃
910072	〃	アワ	ア	〃 〃	〃 大木地区
910073	〃	ゴマ	ゴマ	〃 〃	〃 〃
910074	〃	キビ	K S U N	〃 〃	〃 〃
910075	〃	アワ	ア	〃 〃	〃 〃
910076	〃	ササゲ	アカマミ (ハチガツマミ)	〃 〃	〃 〃
910078	2. 21	〃	アズキ	〃 〃	宮古島砂川地区
910079	2. 22	コムギ	ムギ	〃 〃	池間島
910080	〃	モロコシ	コーリャン	〃 〃	〃
910081	〃	ダイズ	ゲダイズ	〃 〃	〃

耕 種 概 要	用 途	特 記 事 項
4 月播種－8 月下収穫 4 月播種－8 月下収穫 3 月下旬播－8 月収穫 3 月下旬播－8 月収穫 2 月下旬播－5 月上旬収穫 放任	餡, アズキ飯 米に混入	種皮色赤濃淡混, 白莢, 910037より小粒 種皮色濃赤, 黒莢, 宮古島から導入 910039より小粒 サトウキビの後作, 緑肥作物 種皮色黄白, 種皮色黒より粘りがある 白花, 種皮色濃赤紫
〃 2 月播種－5・6 月収穫 放任	若莢 葉菜 団子 葉菜	
4 月播種 11・12 月播種－2・3 月収穫	モヤシ, ぜんざい 味噌	910038に同じくやや小粒 埼玉から入手?
3 月播種－8 月収穫 11 月末播種－4 月収穫	アズキ飯, ぜんざい 米に混入	種皮色赤, 白莢, やや小粒, 晩生品種 種皮色黄白
〃 3 月末播種－5 月収穫 2 月播種－5 月収穫	餡餅 アズキ飯, ぜんざい 葉菜, チャンプルー	種皮色白 種皮色黒 やや大粒, 白莢, 早生
2・3 月播種－11・12 月収穫 5 月下旬播種	豆腐, 味噌 アズキ飯	極小粒, 種皮色黄白, へそ茶 やや大粒, 黒莢, 近年導入 (910037に同?)
2・3 月播種－4・5 月収穫 放任 4 月播種－9 月収穫 4 月播種－11 月上旬収穫	ゴマ和え 若莢 餅 飼料, 米混入, 餅 芋に混ぜる	種皮色茶 白花, 種皮色濃赤紫 種皮色茶 種皮色黄白褐色斑 八重山の健康食品店で入手 花色淡紫, 種皮色灰褐色
2・3 月播種－6 月収穫 11・12 月播種－翌年11 月収穫	モヤシ, ぜんざい 味噌, 豆腐, 緑肥	東南アジアから導入? 種皮色黄白, へそ茶, 極小粒
1・3 月播種－6 月収穫 2 月播種－5・6 収穫	ぜんざい, アズキ飯 餅, 飼料	種皮色黒, 褐色莢 草丈 2 m
〃 2 月播種－8・9 収穫 1 月播種－4 月収穫	餅	種皮色黒
11 月上旬播種－7 月収穫 3 月播種－9 月収穫	餅, ツツムツ 餡, アズキ飯	ツツムツ;もち米に混ぜゲットウの葉で巻いて蒸す 糰 晩生
〃 10 月播種－3 月収穫	〃 麦飯	晩生, 種皮色赤
〃 3・4 月播種－11 月収穫		八重山から導入 種皮色淡黄, 黒褐混

を収集した。多良間島で収集したリョクトウ（910068）は、東南アジアから導入されたいらしいという農家の話であったが、導入元は明らかではなかった。リョクトウは、もやしとして利用するほかに、ぜんざいにするという。

雑穀は、アワ・キビなどを主食として栽培していた時代には、島毎に数品種が栽培されていたというが、現在ではそのほとんどが消失したらしい。

波照間島では、キビを3点（910040,910048,910061）収集した。いずれもモチキビで、「スン」と呼ばれる。11月から2月下旬に播種し、4月から5月に収穫する。種皮が黄白色のキビは米に混ぜて利用されている。アワを栽培する農家はなかった。アワ・キビには粳品種もあり、醸造用に使われていたというが、現在は栽培されていない。多良間島では、キビ1点（910074）、アワ3点（910065,910072,910075）を収集した。播種は11月ないしは2月頃で台風の襲来前の5・6月に収穫する場合が多い。アワは餅に、キビは祭礼用の供えものとして利用される。多良間島では10年ほど以前までアワやヒエが多く栽培されており、形態的にも多様な品種が見られたが、そのほとんどが現在は栽培されなくなってしまったということであった。

モロコシはヤタブ（910043）、ウブゲン（910066,910071）などと呼ばれ、団子や飼料などに利用されている。

ゴマは、種皮色黒（910050,910073）・白（910049）・茶（910057,910060）の3品種を収集した。菓子などに利用され油料としての利用は無いようである。

カラシナ・フジマメなどは、温暖な気候のなかで、畑の隅に放任したまま利用されていた。波照間島のフジマメは白花で種子は濃紫色の花であったが、多良間島のものは淡紫色の花で種子色は灰褐色であった。

5. 所感

今回、八重山地区と宮古地区で収集した作物の種類は、ササゲ・リョクトウ・アワ・キビなどであったが、呼称や栽培時期などが地区間で異なっており、独自の品種が栽培されてきたとも考えられる。しかし最近では、他の島から導入した品種が栽培されることも多く、本州同様在来品種の滅失は急速に進んでいる。特に、雑穀類の栽培は著しく減少し、すでに多くの品種が失われたと思われる。

また本年度は、調査時期がサトウキビの収穫期であり、ほとんどの在来品種がサトウキビの後作として栽培されるため、圃場での立毛状態を観察することはできなかった。したがって、収集品の情報はすべて農家からの聞き取りによっている。

今回の探索では、各島で関係者の方々に大変にお世話になった。波照間島では八重山農業改良普及所の仲宗根盛和氏、多良間島では多良間村役場産業課の波平敏一氏、宮古島及び池間島では沖縄県農業試験場宮古支場の田名広助氏と伊志峰正人氏が在来品種の栽培農家を案内して下さった。この場をかりて深く感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 花田俊雄・沖村 誠・古谷茂貴・中野 寛・杉本 明・中川 仁・松岡 誠・寺内克方・
登野代登・黒島栄市・前津盛祥・池間浩千・田名浩助・上地邦彦 1991.
宮古・八重島諸島の亜熱帯地域植物遺伝資源の収集. 植物遺伝資源探索導入報告書
7. :57-72.